



特集

## 北海道の豊かな自然の象徴 ヒグマと人との共存を考えて45年——ヒグマの会

シリーズ「北海道のジオパーク」⑤ ..... 洞爺湖有珠山ジオパーク  
〔伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町〕

ほっかいどうの本 ..... 『道産子たちの沖縄戦記 あゝ沖縄』 ..... 月形歴史研究会  
『日本の環境を活かした酪農とチーズづくり』 ..... デーリイマン社  
『根室本線—大地の軌跡』 ..... 共同文化社



(写真提供：ヒグマの会)

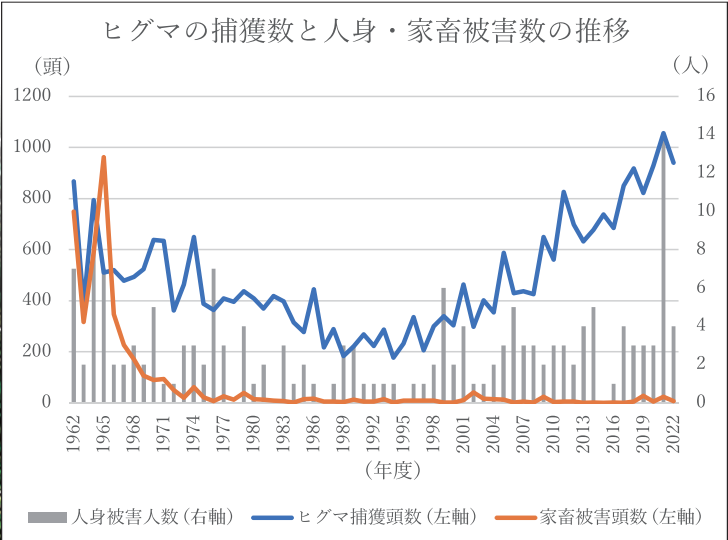
特集

# 北海道の豊かな自然の象徴 ヒグマと人との共存を 考えて45年——ヒグマの会

ヒグマは、北海道の豊かな自然の象徴であり、道民の生活にも深い関わりがある野生動物です。1979年に発足した「ヒグマの会」は、ヒグマに対する正しい知識と理解を社会に広めるとともに、ヒグマを取り巻く諸問題の解決に向けた提言などを行っています。近年、ヒグマの市街地出没や農作物被害が増加し、改めてヒグマと人間社会の共存の在り方が問われています。

45年にわたりヒグマと向き合い、その価値と危険性の両面について啓発する同会の坪田敏男会長と山本牧副会長に、ヒグマ対策のこれまでと今後について聞きました。

(文・写真/片山健一 取材日2024年2月20、22日)



※北海道環境生活部まとめ

(写真提供：ヒグマの会)

## ヒグマと人との 関係性の変遷

国内では北海道だけに生息するヒグマは、ドングリヤフキ、ヤマブドウなどの植物だけでなく、シカやサケ・マス、アリなども捕食します。陸地に生息する国内最大の野生動物、ヒグマが生きていくには、広大な豊かな自然環境が必要です。それは北海道の魅力であり財産です。

北海道の先住民・アイヌは、ヒグマを「キムンカムイ（山の神）」と呼び敬っていました。しかし明治の開拓時代以降、人や家畜、農作物に被害を与える有害獣としてヒグマを人間は積極的に捕獲しました。

1962年の十勝岳噴火による降灰などで餌不足となったヒグマが家畜などを次々と襲ったことを契機に、北海道庁は1963年からヒグ

マ捕獲に奨励金制度を設けました。さらに1966年からは、冬眠明けで体力が低下したヒグマを、草木が芽吹く前の見通しが良い早春に捕獲する「春グマ駆除」も開始します。「1980年代までは、質の良いヒグマを獲れば奨励金や胆嚢（たんのう）、毛皮などを合わせ100万円にもなることがあり、ほぼ無制限に獲っていました」と山本さんは話します。

やがて森林は耕地や宅地になり、ヒグマの生息域が分断、縮小したこともあり、ヒグマは減少の一途をたどり、地域によっては絶滅も懸念されるようになります。1988年に道庁は「ヒグマは北海道の豊かな自然の象徴」と位置付け、絶滅すべき害獣から共存の対象へと方針転換をしました。1989年度末で春グマ駆除を廃止し、駆除は「人の生活圏に入り込んだ場合」などに限定しました。

ヒグマの個体数は近年、増加傾向にあると考えられています。道庁の推計では、2020年度には1万1700頭となり、春グマ駆除廃止直後の1990年度に比べると倍増し、2014年からの6年間で約1割増えているとみられます。

今では、人から追われた経験がなく、警戒心の希薄なヒグマが増え、都市部にも頻繁に出没するようになったのです。2021年度のヒグマによる人身被害は死亡4人、負傷10人の計14人を記録し、1962年度以降で最悪となりました。坪田さんは「ヒグマの生息数が増え、分布が広がったことで、人間社会との軋（こ）れが高まり、決して良好な状況とは言えません」と現状を憂えます。

家畜飼料となるデントコーンを中心に、ヒグマによる農業被害も深刻化し、2022年度の被害額は2億

7100万円に上り、1962年度以降で最大でした。山本さんは「農村部でも住民たちが体を張ってヒグマを山奥に押しとどめていましたが、人口減少と高齢化で人里に野生動物が入り込む隙が生まれてしまいました」と解説します。

## ヒグマとの共存を目指す 「ヒグマの会」

ヒグマの会は1979年3月、まだ有害獣とされていたヒグマとの共存、ヒグマが暮らせる自然環境の保全を目指して、ヒグマと関わり深い研究者、行政職員、マスコミ関係者、ハンターら12人で設立しました。初代会長には札幌市円山動物園元園長の中川敏さんが就任し、一般市民を巻き込んで「ヒグマとの共生・共存」の気運を高めようと啓発活動などを始めると、1年後には会員が150人になりました。

坪田さんは「ヒグマの会は、行政に対して意見書を提出することもあり、専門家の集団と見られがちですが、ヒグマと人とのより良い関係を築いていくための市民団体です。しがらみもなく動き回り、自由に意見が言い合える組織であることが一番大事だと思っています」と話し、ヒグマに対する利害や立場の異なる関



坪田敏男さん

1961年大阪府出身。1979年に北海道大学に入学し、1983年獣医学部を卒業し、1988年大学院獣医学研究科博士課程修了。岐阜大学農学部教授などを経て、2007年北海道大学獣医学研究院教授に就任。



山本 牧さん

1955年福井県出身。1974年に北海道大学に入学し、1980年農学部林学科を卒業。1981年に大学院農学研究科を中退し、北海道新聞社に入社、編集委員などを歴任。2005年にNPO法人もりねっと北海道の設立に参画し、現在は代表を務める。



標茶町で開いたヒグマフォーラム 2018  
(写真提供：ヒグマの会)

係者にも広く門戸を開いた運営を心掛けています。

1981年以降はほぼ年1回のペースで開催する「ヒグマフォーラム」では、ヒグマを取り巻く環境について幅広く事例発表や意見交換を行います。札幌市や旭川市などの都市部で開催すると300人以上の参加者が集まります。時にはヒグマによる

大きな被害が発生した標津町や標茶町、西興部村など農村部でも開催します。駆除に当たったハンターや行政職員、被害に遭った農家らを招き、話を聞いて課題を整理し、知恵を出し合っ解決の糸口を探します。フォーラム後の懇親会、翌日の現地視察でも熱い議論が交わされることもあるそうです。

会報に当たるニュースレター『ヒグマ』は年2回発行しています。会

の活動報告をはじめ、会員が自主的に取り組んだヒグマに関する調査・研究の成果などを掲載しています。以前は文字ばかりで埋め尽くされていましたが、編集委員の世代交代を進めながら、イラストや写真を豊富に盛り込んだ、親しみやすい内容へと刷新を図っています。

40周年記念事業として、ヒグマの生態や安全対策などをコンパクトにまとめ、2020年3月に発行した『ヒグマ・ノート』は、一般市民がヒグマに対する正しい知識や理解を深めることができる内容が好評で、第7版まで重版しています。

会員数は約300人にまで増えていますが、年会費は一般会員が3千円、小学生から大学院生までの学生会員は千円で、広告収入などを含めても年間60万円ほどの収入しかありません。事務局の運営や現地視察など活動の大半は、「理事を中心とした会員の手弁当で賄っています」と山本さんは話します。

### 科学的な根拠に基づくヒグマの会による提言

「ヒグマの会は、保護一辺倒の団体ではありません。時にクマ行政を批判することもありますが一貫し



年2回発行するニュースレター『ヒグマ』

て訴えているのは科学的調査に基づくヒグマ対策の実践です」と山本さんは強調します。

まだ春グマ駆除が行われていた1982年11月、ヒグマの会は、大雪山のヒグマ保全について北海道知事に提言し「ヒグマの実態は不明な点が多く、生息数や生態についても未だ十分に解明されていません」と実態調査の必要性を訴え、多角的なデータの蓄積を求めました。

2001年にヒグマによる人身被害が相次ぎ、農作物などへの被害も多発したことを受けて、2002年1月にも知事に提言します。「ヒグマの生息数が急増しているという科学的根拠は乏しく、むしろ個体群の存続が危ぶまれる状況が続く地域も一部にあります」と指摘し、「個体数が急増していないにもかかわらず、事故や被害が続発するという、



ヒグマの特性などを分かりやすく伝える『ヒグマ・ノート』

一見矛盾したように見える状況は、ヒグマの生息地、あるいは、人とヒグマのかかわりそのものに、重大な異変が起きている」可能性を指摘しました。

ヒグマによる人身事故は、人が捨てたゴミなどを餌だと認識した「問題行動グマ」の動き、適切な対応を学んでいない人間社会との遭遇で発生しやすくなります。事故を緩和するためにはヒグマ本来の生息地である天然林を再生し、個体数を減らす捕殺ではなく、「科学的な合理性を持った野生動物管理」と、一般市民への情報提供や教育の必要性を唱えました。



好評な『ヒグマ・ノート』(右)と、2023年7月に公表した「これからの10年 ヒグマと向き合う グランドデザイン」の詳細版

2004年9月には、一度に75キロ余りを移動する雄のヒグマを4年間にわたり追跡した結果として、野生動物が胆振、日高両地域間を往来できる唯一のコリドー(回廊)の存在をもとに緑地帯としての保全を、道庁などの関係機関に要望しました。

## 転換期を迎えるヒグマ対策

市街地に出没するヒグマは、経験が乏しく好奇心旺盛な若いクマと、警戒心の強い子育て中のクマが増えています。「母グマの発情を促すため繁殖期の雄グマは子グマを殺すことがあります。これを警戒する母グマは、雄グマがめつたに近づかない人里周辺で生活するようになり、独り立ちした子グマも人里近くで暮ら

すようになります。人間に対する警戒心が相対的に薄れています」と山本さんは、人慣れしたヒグマが増加する背景を説明します。

北海道のヒグマ対策は、春グマ駆除廃止以来の転換期を迎えています。2023年2月から、人里周辺に生息するヒグマを春先に駆除し、人への警戒心を植え付けて人里への出没を抑制すると同時に、高齢化で減少が見込まれるハンターの育成を目的に「人里出沒抑制等のための春期管理捕獲」を始めました。

全国的にも2024年4月からクマ類が指定管理鳥獣に追加されました。これにより、ヒグマの捕獲や生態調査に国から交付金が配分されるほか、夜間でも猟銃を使用した駆除などができるようになります。

ヒグマの会は2023年7月、「これからの10年 ヒグマと向き合うグランドデザイン」という提案をまとめ、鈴木直道知事に手渡ししました。ヒグマと人間社会の軋轢増加を踏まえ、約2年かけて「北海道ヒグマ管理計画」を検証し、先進的なクマ管理を実践する島根県や兵庫県の事例などを調べ、住民生活の安全を守りつつ、ヒグマを保全する対策を示しました。

提案の骨子は、①人間活動を優先するゾーンとヒグマの生息域を区分



「ヒグマと向き合うグランドデザイン」を鈴木知事(右)に提出(写真提供:ヒグマの会)

してすみ分けを図るゾーニング管理、②鳥獣対策の実務を担う地域対策組織の設置、③科学的根拠に基づく管理に必要なモニタリング、④ヒグマに関する正しい知識の普及啓発——を挙げています。

## 地域独自の対策など新しいフェーズへ向けて

ほとんどのヒグマは人を避けて行動しますが、ゴミを食べたり、餌付けされたりした「問題行動グマ」は人との危険な遭遇を起こす可能性があります。簡単に見分けられないため、何の危害を加えていないクマも人里に出てきてしまうと駆除されま

す。「危険なクマか判断を下す専門家を各地域に配置して、すぐに射殺するのではなく、様子を見て山に帰るのを待つ」といった選択肢も持つな

ど、きめ細かな対応をしてほしい」と坪田さんは話します。

グランドデザインでは、複数の市町村がまとまって野生動物対策の予算を出し合い、地域独自の対策に取り組み実働組織をつくることを提案しています。2024年11月にヒグマの出没が増えている興部町で開くヒグマフォーラムでは、興部町と隣の紋別市、西興部村などが一体になった地域対策組織のモデルケースをつくれぬか、話し合う方向で調整を進めています。

ただ、地域対策組織で中心的役割を果たすことが期待される野生動物の専門家が道内にはまだ多くありません。「野生動物のことを学びたいと獣医学部に入る学生も一定数いるのですが、野生動物関連の就職先があまりありません。海外では国立公園で働くレンジャー(自然保護官)が若者の就きたい職業の上位に挙げられています。魅力的な働き口があれば、そこを目指す優秀な人材も増えてくるのでは」と坪田さんは期待を寄せます。

### お問い合わせ先

ヒグマの会 事務局  
〒069-18501  
江別市文京台緑町582 酪農学園大学  
農食環境学群環境共生学類 野生動物生態  
学研究室内  
電子メール [higumanoikai.1979@gmail.com](mailto:higumanoikai.1979@gmail.com)  
HPアドレス <https://www.higumanoikai.org/>



# 洞爺湖有珠山ジオパーク

〔伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町〕

（文と写真・片山健一 取材日2024年3月12日）

## 火山が造った美しい景観

洞爺湖は、約11万年前に起こった巨大な噴火で陥没した窪地に水が溜まってできたカルデラ湖です。湖中央部に浮かぶ緑豊かな中島も、約5万年前に繰り返した起こった噴火によって、地下から押し上げられた溶岩が固まった「溶岩ドーム群」であり、噴火の積み重ねが美しい景観を形成しました。

洞爺湖の南側には活火山の有珠山があります。約2万年前に誕生した有珠山は、20世紀中だけでも4回（1910

年、1944〜45年、1977〜78年、2000年）の噴火を繰り返しています。活動域を変えて噴火するのも特徴で、山頂付近や麓にはいくつもの噴火口を見ることが出来ます。

直近の2000年噴火は、国道や住宅のある山麓で発生しました。地殻変動など噴火の兆候をいち早く捉えたことで住民の事前避難に成功し、噴火による犠牲者は出ませんでした。しかし、次の噴火に備え、災害の記憶を風化させないために、被害を受けた建物や道路などは「災害遺構」として保全し、見学できる散策路を整備しています。

噴火が起きると、火口周辺の植生は全滅しますが、やがて再生します。場所を替えて20〜50年ごとに噴火してきた有珠山周辺では、さまざまな段階にある森林の発達過程を見ることが出来ます。

### 大地の恵みを生業に

なぜ広い北海道で、わざわざ危険な活火山のそばで人は暮らすのか……。この地を訪れた人々が抱く疑問です。洞爺湖町経済部観光振興課の中谷麻美係長は「火山がもたらす大地の恵み、素晴らしい景色が魅力です」と答えます。

洞爺湖を源とする地下水が豊富で、有珠山の麓には湧水も多く、約1万年前から人々が暮らしていました。さらに、1910年の有珠山噴火がきっかけで温泉水が湧出するようになり、洞爺湖南岸沿いには大型観光ホテルが軒を連ねる温泉街ができました。



有珠山噴火の歴史を学ぶことができる火山科学館

火山灰や軽石が降り積もってできた湖周辺の台地は、日当たりと水はけが良く、ジャガイモやニンジンなどの根菜類、小豆など豆類の耕作に適しているほか、サクランボやリンゴなどの果樹園にも利用されています。

漁業と火山にも関係があり、約8千年前に起こった有珠山山頂部の崩壊で、岩石や土砂は噴火湾まで達し、岩の隙間は貝やカニ、タコなどの格好のすみかになりました。

### 減災のため人づくりに注力

2009年8月、日本で最初の世界ジオパークに認定された洞爺湖有珠山地域が評価されているのは、「火山と共生するための減災文化を受け継ぐ人づくり、火山の恵みを生かした地域づくりを進めている点です」と洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会の加賀谷にれ事務局次長は話します。

同推進協議会は、有珠山噴火に備えた地域のリーダーとなる知識を持ち、火山学習や減災教育の講師やツアーガイドも務められる「洞爺湖有珠山マスタースター」を2008年から育成・認定しており、2023年度は70人が活動しています。

ジオパーク内は、主要エリアが支笏洞爺国立公園に指定されているほか、2021年に世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産になっている3つの貝塚もあります。ジオパーク推進協議会では、火山・減災だけでなく、自然・アウトドア、歴史・文化・産業など各方面で活動するガイド団体と連携することで、旅行者たちの多様な体験ニーズに対応しています。

ジオパークに関する情報を提供する施設も、洞爺湖ビジターセンターに併設された火山科学館、洞爺湖観光情報センター内の「ジオパークと大地の恵み展」、昭和南山の観察記録が豊富にある三松正夫記念館など多数点在しています。



荒々しい有珠山（手前）と美しい洞爺湖（奥）  
（写真提供：洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会）



次世代に向けた減災のための教育活動  
（写真提供：洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会）

## ほっかいどうの本

このコーナーは北海道の出版社から発行された本を社員が読み紹介しております。お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。特記以外は税込価格です。

### 道産子たちの沖縄戦記 あ、沖縄

清水 幸一 著／楠 順一 編  
A5判 592頁 2970円  
月形歴史研究会 発行／かりん舎 発売  
e-mail: info.aokinawa@tsukigata.org



現在、日本の人口の9割が戦後生まれの世代となりました。新聞やテレビではロシアとウクライナの戦況が毎日のように報道されています。戦争は遠い昔のことではなく、世界を見れば身近に起きているという事実を突きつけられます。

今から60年前、北海道タイムスの夕刊に「道産子たちの沖縄戦記 あ、沖縄」と題して276回の連載がありました。本書はこの内容を当時の文面そのままに書籍化したものです。次世代へ思いを繋ぐ役割を担い、60年の時を経て再び世に送り出されました。

北海道出身の兵士の目線に基づく沖縄戦での体験が行間に刻み込まれています。遠く離れた沖縄の地で何故に北海道出身の兵士が多かったのか、その疑問も本編を読み進めていくと理由が見えてきます。

戦場の中で彼らは、どんな思いを胸に抱いていたのか……。一人でも多くの方に本書を読んでいただき「戦争とは何か」について考えるきっかけになればと強く思います。

(北海道営業部 青柳ひとみ)

### 日本の環境を活かした 酪農とチーズづくり

宮嶋 望 著  
四六判 100頁 1980円  
デーリイマン社 発行  
011・231・5261



著者は、アメリカ・ウィスコンシン州での2年間の酪農実習を経て、北海道十勝管内新得町でバター・チーズの生産を中心とする営農を始め、今では日本のナチュラルチーズ作りの第一人者と言われています。

本書では、日本の酪農の現状と未来を見据え、これまで日本の酪農を守り発展させてきた国の仕組みが崩れつつある中、どのように「酪農危機」を乗り越えていくかについて記されています。日本の土壌や水、微生物など地理的条件を活かして、酪農経営の伸びしろを見出すべく、日本独自のチーズ作りが大切だと説きます。

また、現代社会に溢れる鉄製品・電磁波などの健康への悪影響やコロナ禍に対抗する免疫力を高めるために、乳に含まれるラクトフェリンに注目し、ナチュラルチーズの有効性についても解説しています。

私たちが日々身近に摂取している乳製品を支える酪農を取り巻く環境と、その新たな可能性について、考えるきっかけとなる1冊です。

(フリエイション部 佐藤明子)

### 根室本線―大地の軌跡

深川 俊一郎 著  
A4変型判 60頁 2420円  
共同文化社 発行  
011・251・8078



私は小学生の頃、札幌市の白石駅から函館本線で滝川へ出て根室本線に乗り換えて富良野へと各駅停車の旅をしました。富良野駅では、へそ踊り人形に見送られ新得行きが発します。

この富良野から新得までの路線が、今年3月末で廃線になりました。かつて駅員が常駐していた駅は無人駅となり、2016年の台風10号での甚大な被害により幾寅・落合の間は復旧することなくこの日を迎えました。

富良野盆地は寒暖差が厳しく、夏は30度を超え、冬はマイナス20度を下回る日もあります。写真集は厳しくも美しい冬の景色から始まります。雪解け水がキラキラと輝き草木が芽吹く春。木々が徐々に生い茂り、強い日差しの中でも動物も活動的な夏。木々が色づき徐々に静寂へと向かう晩秋。どの季節にも一両の電車が人々を繋いできました。

著者は今回の廃線を自然への回帰と記しています。ここに電車は二度と走ることはいけませんが、ページを開く度に鼓動のようにカタンカタンと音が聞こえてきます。

(生産管理部 蛇貝裕子)

# 新刊情報

書名の下の数値は日本図書コード(J.S.B.N.)及び雑誌コード。特記以外は税込価格。お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。

## The JR Hokkaido

北海道への旅 978-4-86721-116-8

The JR Hokkaido 編集部 編  
A5判 208頁 1980円

## 根室線の記憶 富良野く新得間 空知川に沿って

番匠 克久 著  
B5判 96頁 1540円

## 夫ががんになったら 夫婦で立ち向かうためには

ペーパーバック版 978-4-86721-107-6  
土倉 玲子 著  
四六判 244頁 1870円

## 天はあおおお 野はひろひろ 池澤夏樹の北海道

978-4-86721-118-2  
池澤 夏樹 著／写真・水越 武  
A5変型判 256頁 2420円

## 海岸ぐるり！ 道南の地形と地質

前田 寿嗣 著 978-4-86721-171-5  
A5判 176頁 1870円

## 北海道コンサドール札幌 オフィシャルガイドブック2024

北海道新聞社 編 978-4-86721-124-3  
A4判 120頁 1650円

## 北海道発「100年時代」の 私の暮らし人生帳

978-4-86721-121-2  
北海道新聞社 編  
A4判 96頁 1210円

## 北海道絶滅動物館 「北海道絶滅動物館」編集委員会 編

978-4-86721-125-0  
B5判 160頁 2750円

## 北海道日本ハムファイターズ オフィシャルガイドブック2024

978-4-86721-119-9  
北海道日本ハムファイターズ 編  
A4判 120頁 1650円

## 池上商店 夢の商家館

978-4-86721-127-4  
池上商店「商家館」開設集団 編  
A5変型判 160頁 2860円

## ほっかいどう はじめての虫さがし

978-4-86721-123-6  
堀 繁久 著  
A4判 40頁 2310円

## UPPOY: The Complete Guide English Version

978-4-86721-122-9  
北海道新聞社 編  
A5判 128頁 3850円

## 道新プラス 北海道の病院2024

1674-03  
北海道新聞社 編  
B5判 274頁 990円

## 北海道新聞社 北海道新聞社

060 0711 札幌市中央区大通西3-1-6  
011-210-5744

## 24 25 北海道キャンプ場ガイド

978-4-906740-66-9  
亜璃西社 編著  
四六判 352頁 1430円

## サハリノ島の植物

978-4-8329-8241-3  
高橋 英樹 著  
B5判 798頁 30800円

## 教材憲法判例 第5版追補版

978-4-8329-2911-1  
中村 睦男・常本 照樹・  
岩本 一郎・齊藤 正彰 編著  
A5判 616頁 3520円

## 北海道大学出版会

060 0800 札幌市北区北9条西6-1丁目  
011-747-2300

## ひとささのぶどう

978-4-89115-428-8  
なかい れい え／けーたろう ぶん  
A4変型判 24頁 1320円

## 枕草子の日本三名泉 榊原温泉

978-4-89115-429-5  
松田 忠徳・増田 晋作 著  
四六判 302頁 2200円

## 一房の葡萄

978-4-89115-430-1  
有島 武郎 著  
A6判 119頁 880円

## 中西出版

060 0800 札幌市東区東雁来3条1丁目1-34  
011-7885-0737

## 醜態研選書No.94 躍動する中国の酪農乳業と生乳流通

2008年×ラミン事件以降の展開  
978-4-86453-086-9  
清水池 義治・鄭 海晶 編著  
A5判 258頁 3080円

## デーリイマン社

060 0005 札幌市中央区北5条西14丁目  
011-231-5261

## 「九九」が言えないまま 大人になる子どもたち

978-4-90281-57-9  
平山 裕人 著  
A5判 80頁 880円

## 寿郎社

060 0807 札幌市北区北7条西2丁目  
011-708-8565

## 神々の遊ぶ庭 天空の園 大雪山

978-4-8739-994-6  
両瀬 いさお 著  
A4変型判 80頁 2420円

## 根室本線―大地の軌跡

978-4-8739-996-0  
深川 俊一郎 著  
A4変型判 60頁 2420円

## マレーシアの中小企業

978-4-8739-388-4  
―金融支援と政策評価の新展望―  
中川 利香 著  
A5判 232頁 2200円

## あの授業だけは取るな!

978-4-8739-400-4  
「解」のない世界で活躍できる究極の学問:  
「蛙手への招待」とは何か?  
鈴木 誠 編著  
A5判 216頁 2200円

## 虫めつるばあばの 里山の虫図譜

978-4-8739-397-7  
本田 尚子 著  
B5変型判 172頁 2420円

## 爪句@空撮日記―2023

978-4-8739-389-1  
青木 曲直 著  
100×74mm 232頁 500円

## 私の国歌

978-4-8739-401-1  
クララ 著  
四六判 176頁 1430円

## 嗚呼、メロン島 柿本胤二画集

978-4-8739-402-8  
柿本 純 編  
A4判 96頁 3520円

## 共同文化社

060 0033 札幌市中央区北3条東5丁目  
011-251-8078

## 紙のこぼれ 森林公園の春

37.5cm×26cm  
加藤 光浩 木版画  
札幌市手稲区に、面積59・7ha、札幌ドーム11個分の広さの前田森林公園がある。公園の半分を森林が占め、3000平方メートルの芝生広場や、中央には展望台から手稲山に向かって全長600メートルのカナルとボラ並木があり、異国情緒を感じさせる。犬の散歩やウォーキングをする人が多く、子供連れの家族が遊んでいる様子が微笑ましい。

## 満開の桜が咲く芝生の中、暖かい日差しに包まれて春の喜びを感じた。

GEM木版画会 会員 札幌市在住



※季刊アイワードのバックナンバーを  
弊社ホームページよりご覧いただけます。  
URL <https://iword.co.jp>